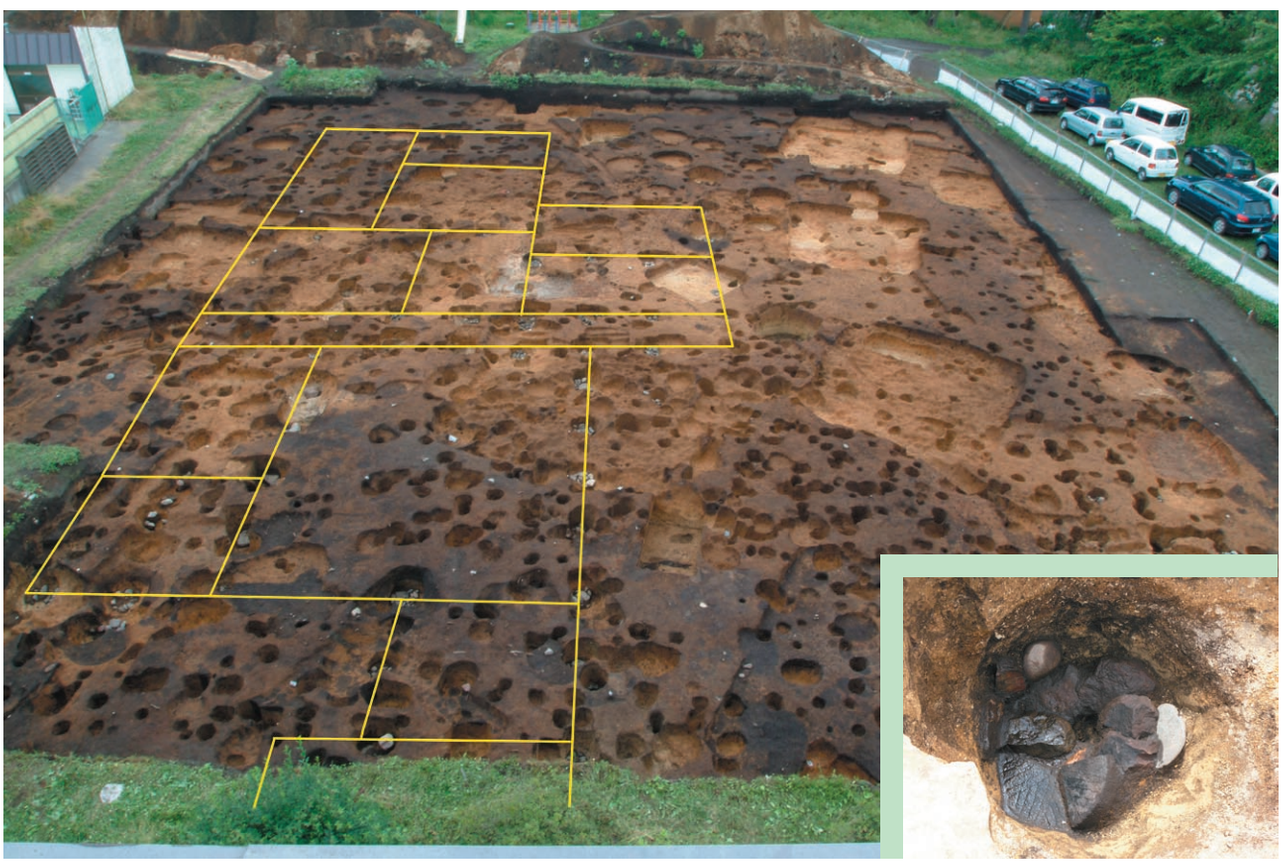
掘りday はちのへ

ー八戸市埋蔵文化財ニュース第１０号ー



大型掘立柱建物跡

柱穴（根石とした石臼･石皿）

江戸時代の大型屋敷跡（普門院）発見！

昨年の八幡（やわた）遺跡発掘調査で、南北32 m、東西16 mの江戸時代の大型掘立柱建物跡が発見されました。この建物跡は、櫛引八幡宮（くしひきはちまんぐう）の別当（べっとう）が住んでいた「普門院（ふもんいん）」の一部と考えられます。

普門院は天台宗の寺院で、櫛引八幡宮を管理していました。神社を寺院が管理する形態は、江戸時代までの神仏（しんぶつ）混淆（こんこう）によるものです。普門院の所在は文献からある程度つかめていましたが、今回の発掘調査で初めて場所が特定できました。　（村木　淳）

作業風景

八幡（やわた）遺跡－縄文時代～近代－

八幡遺跡は、八戸市の南西部に位置し、遺跡の大半は明治小学校の敷地が占め、その他、宅地・墓地となっています。

今回は、明治小学校屋内運動場建設に伴う発掘調査で、縄文時代晩期から近代に至るまでの数多くの遺構・遺物が検出され、長年にわたりこの地に人々が住んでいたことが分かりました。

遺構は、古代の竪穴住居跡 32 棟、中世～近代の竪穴遺構 8 棟、掘立柱建物跡 47 棟、塀及び柵 15 基、井戸 2 基、土坑 72 基が検出されました。

遺物は、縄文土器・石鏃・石斧、土師器・須恵器・鋤鍬先・鉄製紡錘車、陶磁器・古銭（景徳元宝・永楽通宝・寛永通宝）、小刀・釘・青銅製品・碁石・カンザシ・キセル等が出土しています。

特に注目されるのは、前頁で触れた、大型掘立柱建物跡（普門院）の発見です。

普門院は、鎌倉時代には所在していたといわれ、江戸幕府の寺院統制により盛岡藩の管轄に入っています。盛岡藩領内 85 の寺のうち、筆頭となる 1,039 石を拝領していました。普門院の所在がわかる唯一のものとして、幕末に盛岡藩士漆戸茂樹によって書かれた「北奥路程記（ほくおうろていき）」に収められている絵図面が残っています。

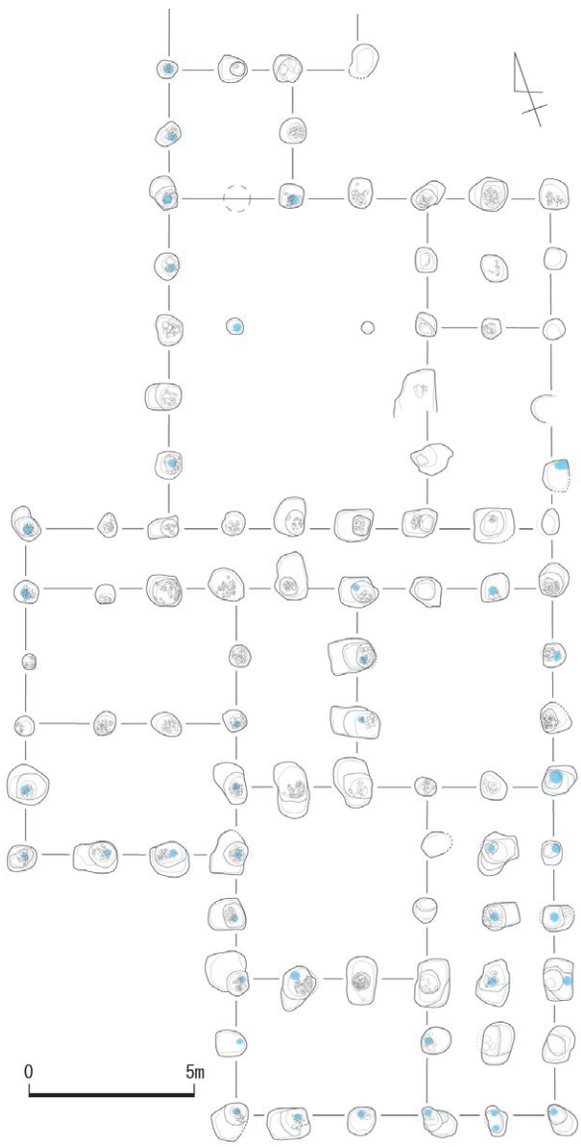
明治維新後の神仏分離（しんぶつぶんり）によって普門院と櫛引八幡宮は分離され、明治 26 年 (1893) の一日市の大火で普門院に飛び火し、焼失したといわれます。

（村木　淳）

縄文時代（縄文土器）

古代（土師器甕）

近世（青銅製品）



大型掘立柱建物跡

館平（たてひら）遺跡　－貝殻もよう・とんがり底の土器－

館平遺跡は、新井田川と松館川が合流する地点の右岸にあり、古くから縄文時代早期（10,000～6,000年前）の遺跡として、また中世の新田城跡として知られている遺跡です。

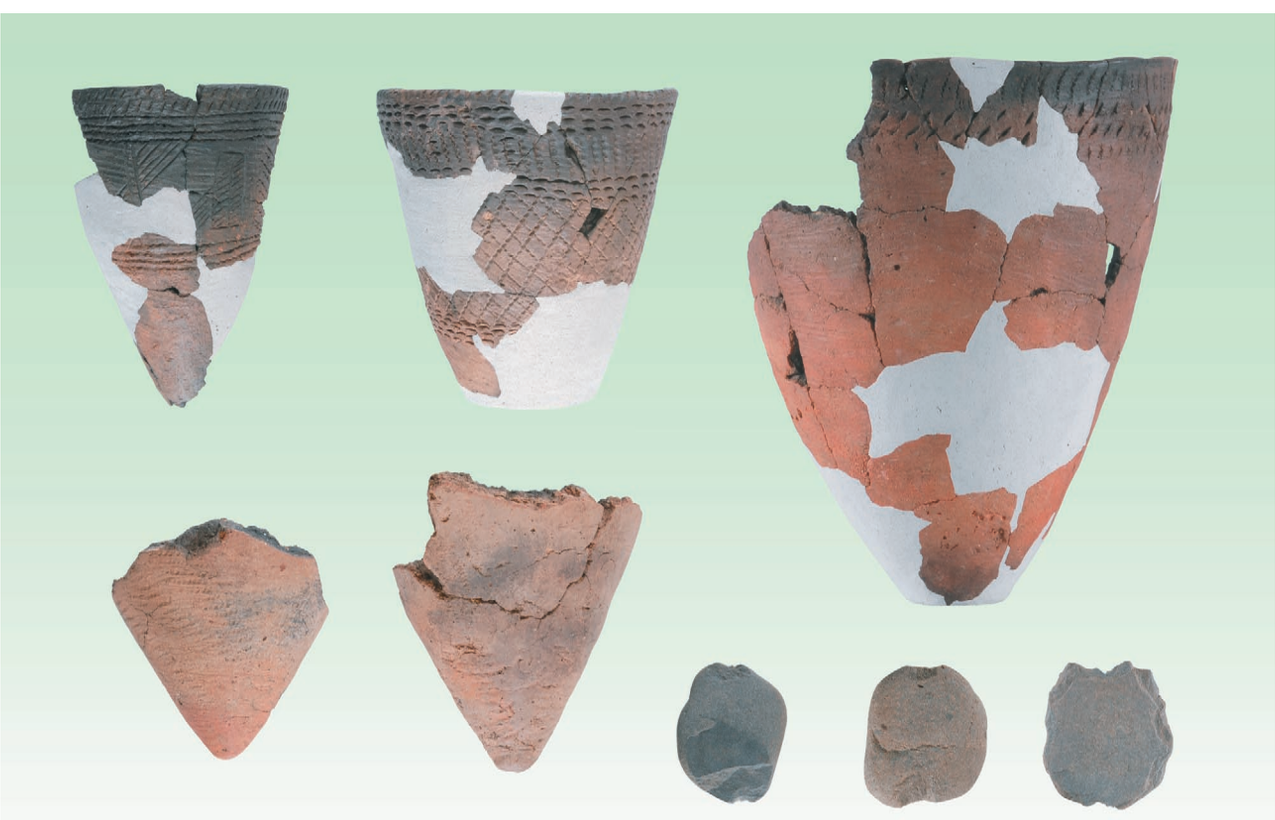
今回の調査では、貝殻もよう（貝殻文）で、とんがり底（尖底）の土器がたくさん見つかりました。土器のかたちは、先の尖った円錐形で、表面に棒状の道具で突いたり、サルボウガイやアカガイなどの貝の縁で文様が描かれています。これらは、縄文時代早期中葉（約8,000年前）につくられたもので、白浜式土器として広く知られています。尖底土器は地面に置いても転がってしまうため、底を地面に突き刺したり、石で支えたりして煮炊きをしていたと思われます。

竪穴住居跡は４棟ほど見つかり、円形もしくは楕円形で７ｍほどの大きさで、家の中に炉はなかったようです。

また、扁平な石の両側を打ち欠いた石のおもり（石錘）がたくさん見つかっていることから、縄文人が魚や貝類をとる「漁」を活発に行っていた様子がうかがえます。　（小久保　拓也）

猿頬貝（サルボウガイ・左）、赤貝（アカガイ・右）
どちらの貝も、むき身は赤い。現在は佃煮などで食されている。（「日本近海産貝類図鑑」より）

竪穴住居跡
東西７ｍほどの楕円形をしている。同じ場所で建替えられている。



白浜式土器（尖底深鉢の貝殻文土器。右端の土器の高さ 29cm、右端の石器の長さ 8cm）

平安の大集落～林ノ前遺跡～

林ノ前遺跡は、八戸駅の北約 1.5 ㎞、八戸市尻内町字熊ノ沢にあります。東に流れる浅水川の左岸、東に突き出た舌状台地の上に位置します。浅水川をはさんだ向かい側の丘陵には、古代から中世にかけての大仏遺跡があります。

遺跡内で植林・土取りが行われることになり、平成 12 年から八戸市教育委員会によって、試掘・発掘調査が行われています。また、県道改良工事に伴い青森県埋蔵文化財調査センターの調査も行われました。これらの発掘調査の結果、林ノ前遺跡は、10 世紀中葉～ 11 世紀の平安時代の大集落であることが分かりました。

特徴の一つは、遺構数が多く、遺構密度が高いことです。検出された遺構は、竪穴住居跡や竪穴遺構が 64 棟、土坑が 250 基もあります。県の調査では、竪穴住居跡・竪穴遺構 129 棟、土坑 713 基にものぼります。遺構は、斜面地の等高線に沿って 3 ～ 4 条の帯をなして雛段状に分布しています。しかも、同じ場所で作り替えが何度も行われていて、当時、この集落の活動が非常に活発だったことを表しています。特に、土坑の数が非常に多く（住居数の約 4 倍）、規模も大きいのが注目されます。八戸地域の一般的な平安時代の集落では、これほど多数の土坑が見つかる例はないので、通常の生活に必要な施設ではなく、集落で行った何らかの生業にかかわるものと考えられます。他に、県の調査区にある台地の頂上部分から、長さ 70 mにわたって環濠跡が見つかっています。

遺物は、土師器の甕を主体に、土師器坏・皿、取手付土器、須恵器壺・甕、鉄製品などが出土しています。さらに、鉄製品を作る時に必要な、フイゴの羽口や坩堝（土師器甕を転用）、砥石、製鉄時にでる鉄滓や、鉄を鍛錬するときにでる鍛造剥片も見つかっていて、集落内で製鉄・鍛冶作業を行っていたことが分かりました。

沖積地を望む舌状台地に集落を構えて、ウマ、ウシを飼育し、鉄器や銅製品を製作するなど、林ノ前遺跡の様子がしだいに明らかになってきています。　（渡　則子）

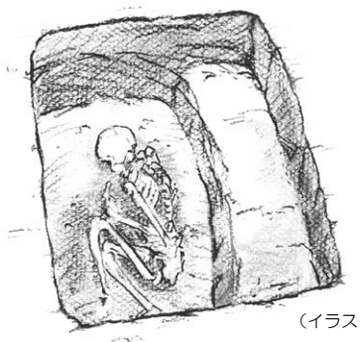
林ノ前遺跡　傾斜地に竪穴住居や土坑が作られています

田向（たむかい）遺跡　－江戸時代の墓地－

田向遺跡は、新井田川左岸、標高７～11ｍの低位段丘上に位置しています。本遺跡の調査は、平成13年からほぼ継続して実施しており、昨年度までに調査対象面積の約８割にあたる約56,000㎡の調査が終了し、縄文時代から近世にわたる複合遺跡であることが明らかになっています。昨年度は、遺跡南側の2,720㎡を調査しました。

今回の調査では、縄文・飛鳥・平安時代、中近世（主に江戸時代）の遺構・遺物が検出されました。注目される成果は江戸時代の墓地が発見されたことです。19基の墓があり、成人と子供に分けられます。成人の埋葬方法はほとんど同じで、袋状に穴を掘り込んで埋葬されていました。副葬品は数・種類とも少なく、成人墓から煙管（きせる）、子供墓から貝殻が出土している程度です。墓の上に墓石などの墓標がなかったため、埋葬された人たちの関係はわかりませんが、現在でも古いお宅の敷地の一画に残っている「屋敷墓（やしきばか）」だったのかもしれません。　（杉山　陽亮）

検出された墓群　長さ約16ｍ、幅約８ｍの範囲に、19基の墓が密集していました。



（イラスト：工藤三穂子）

人骨埋葬図（第３５号土坑墓）
袋状に掘りこまれた墓の屋根部分と埋め土を取り除いた状況です。長さ約1.2ｍ、幅約１ｍ、深さ約60cm

焼き物と遺跡　～国産磁器が生産されたころ～

日本では焼き物のことを、土器、陶器、磁器の三つに分類しています。土器は縄文時代に、陶器は飛鳥時代に、磁器は江戸時代に、それぞれ作られ始めました。短期間で変化し普遍的に認められる焼き物は、遺跡の年代を決める格好の資料となります。

国内で磁器生産が行われるまで、白磁、青磁、染付けなどの磁器は、中国や韓国から輸入、消費していました。陶器と違い、硬質で薄く透明感がある磁器は、貴重品として扱われたことでしょう。一方、17世紀の初頭に肥前（現在の佐賀県）で磁器生産が始まると、その本格化とともに中国産磁器の供給は減ります。

写真の中国産磁器染付（そめつけ）は、八幡遺跡からみつかったものです。17世紀前葉の遺物は、八戸市内では非常に稀であり、八幡遺跡に有力者が居たものと考えられます。また、根城跡の17世紀を前後するころの遺物は、1592年に城の一部が取り壊されても、1627年に遠野へ移るまでの間住み続けたことを示しています。このように、遺跡からみつかる焼き物は、モノサシとして有効であるだけでなく、当時の様子を知る重要な手掛かりとなります。　（小保内　裕之）

中国産磁器染付（そめつけ）鉢（上）と皿（下）：17世紀前葉

平成 18 年度八戸市遺跡調査報告会

平成 19 年 3 月 17 日（土）、八戸市総合福祉会館において平成 18 年度八戸市遺跡調査報告会を開催しました。この報告会では、その年の主な発掘調査成果報告と出土遺物展示を行っており、今回の参加者は約 180 名と盛況でした。

報告は、江戸時代の大型掘立柱建物跡が見つかった八幡遺跡、縄文時代早期の竪穴住居跡が見つかった館平遺跡、江戸時代の墓地が見つかった田向遺跡の調査成果のほか、是川中居遺跡から出土した木製遺物の製作復元について行いました。

また、栗村知弘氏（八戸縄文保存協会会長）より、かつて八幡遺跡周辺にあった「普門院」と櫛引八幡宮について特別報告を頂きました。

遺物展示では、八幡遺跡より出土した中世～近代の陶磁器や青銅製品、館平遺跡から出土した縄文時代早期の土器、田向遺跡の墓から出土した副葬品等のほか、是川中居遺跡出土遺物の復元製作品・レプリカを初公開しました。

（船場　昌子）

出土遺物展示

栗村知弘氏による特別報告

ふるさと先人パネル展を開催 －ふるさと先人資料収集事業－

八戸には市の発展に尽力し、全国に誇れる先人が数多くおられますが、これまで先人の功績に触れ、知る場がありませんでした。このため市では、貴重な資料の散逸を防ぎ、市民が郷土に誇りと愛着を持てるまちづくりにつなげるため、「ふるさと先人資料収集検討委員会」を設置し、先人の資料収集を総合的に検討するとともに、先人の功績を広く周知する活動を行っています。

平成 18 年度は、明治以降に活躍した先人 195 名に関する公共機関の資料収蔵状況を調査し、台帳を作成しました。また、八戸の金融業・工業発展に業績を残した 5 代目泉山吉兵衛や八戸港建設の基礎を築いた浦山太吉をはじめ、先人 10 名のパネルを製作し、市民ホールや公会堂ロビーで「ふるさと先人パネル展」を開催しました。

平成 19 年度は民間の先人資料収蔵状況を調査するほか、毎年 10 人程度のパネルを増やしながら、随時パネル展を開催し、先人の功績周知を図って参りますので、是非足をお運びください。

（高森　大輔）

パネル展の様子

＜パネル展で紹介した先人＞

５代目泉山　吉兵衛	浦山　太吉
大沢　多門	神田　重雄
北村　益	西有　穆山
橋本　雪蕉	６代目橋本　八右衛門
長谷川　藤次郎	羽仁　もと子

※先人パネルは、展示して頂ける公共施設や企業・学校等の団体に無料で貸出しております。詳細は文化課までお問合せください。（問合先：0178-43-2111 内 456）

是川縄文の里整備事業

平成 18 年度は、(仮称) 是川縄文館建設事業・縄文シンポジウム・是川遺跡ジャパンロード（漆の道）事業・是川遺跡出土木製遺物復元製作などを実施しました。（大野　亨）

●アジアシンポジウム

是川遺跡ジャパンロード事業は、アジア各地の漆文化の調査を通して、約 3,000 年前に漆文化が成熟した是川遺跡を再評価し、是川遺跡の縄文文化における植物利用・漆工芸について広く市民に紹介することを目的に行っています。平成 18 年度は 3 ヶ年事業の最終年にあたり、海外調査（中国・韓国・ベトナム）のまとめとして「アジアシンポジウム」を開催しました。

アジアシンポジウム講演プログラム

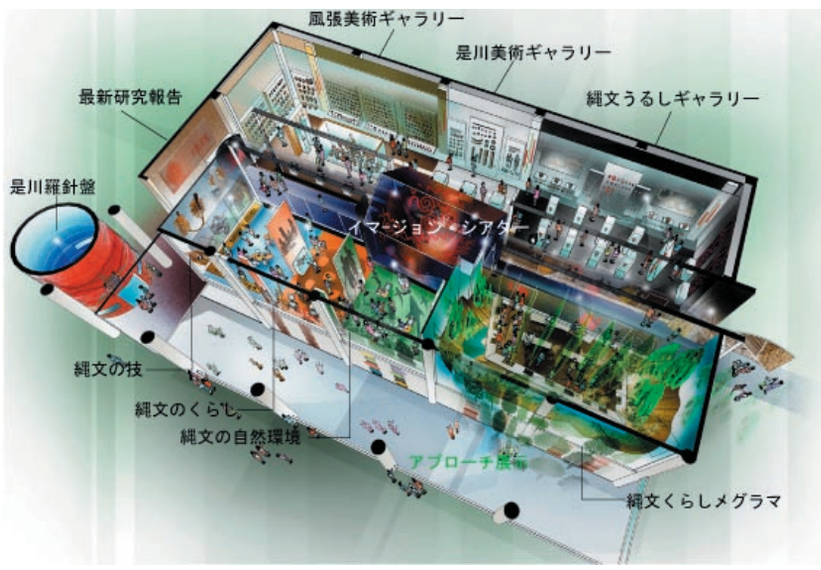
（日時：平成 18 年 12 月3日　会場：八戸市公会堂文化ホール）

【基調講演】	岡村　道雄氏（奈良文化財研究所企画調整部長）
【報　　告】	王　　巍　氏（中国社会科学院考古研究所所長）
	何　　努　氏（中国社会科学院考古研究所教授）
	車　順 喆 氏（韓国文化財庁国立慶州文化財研究所専門委員）
	グエン・ズオン・ホアン氏（ベトナム国立歴史博物館専門官）
	鈴木　三男氏（東北大学植物園長兼教授）
【討　　論】	コーディネーター：松田　修一氏（東奥日報社編集委員）

●（仮称）是川縄文館

是川遺跡の隣接地に建設する (仮称) 是川縄文館は、是川遺跡や風張遺跡などの発掘成果をふまえて展示・体験交流・情報発信を行う施設であり、市内の埋蔵文化財の調査や収蔵を行う埋蔵文化財センターの役割も担います。

平成 18 年度は建設の基本設計を実施し、展示基本設計は指名型プロポーザル方式、建築基本設計は簡易型プロポーザル方式により業者選定を行いました。審査の結果、展示は株式会社丹青社、建築は株式会社岡設計が最優秀となり、平成 19 年 3 月に基本設計図書が完成しました。今後、平成 23 年度の開館を目指して実施設計・工事を進めていく予定です。



（仮称）是川縄文館展示基本設計　空間イメージ
（株式会社丹青社）

●復元製作

復元製作は、是川遺跡から出土した縄文時代の木製品と同じ材質、同じ大きさで製作するもので、(仮称) 是川縄文館の展示や教育普及等に活用する目的で実施しています。

平成 18 年度は、弓・耳飾り・籃胎（らんたい）漆器・木胎（もくたい）漆器の復元製作を行いました。

弓（コマユミ）

木胎漆器（トチノキ）

籃胎漆器（タケ）

耳飾り
（トチノキ・コマユミ）

平成 18 年度　八戸市内発掘調査

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積	主な時代
八戸市内遺跡発掘調査事業（補助事業）	田面木遺跡①	踏査	個人住宅建築	H18/4/3	－	古代
	田面木赤坂（1）遺跡	踏査	病院関係施設整備	H18/5/17	－	縄文 / 古代
	田面木遺跡②	踏査	個人住宅建築	H18/5/17	－	古代
	毛合清水（2）遺跡	踏査	事務所建築	H18/6/8	－	古代
	市子林遺跡②	踏査	個人住宅建築	H18/9/6	－	縄文 / 古代 / 中世 / 近世
	松ヶ崎遺跡	確認調査	個人住宅建築	H18/5/8	5 ㎡	縄文
	酒美平遺跡①	確認調査	個人住宅建築	H18/7/19	4.8 ㎡	縄文 / 古代
	糠塚遺跡	確認調査	事務所建築	H18/8/11	1 ㎡	縄文
	盲堤沢（2）遺跡	確認調査	送電線建替	H18/9/4	18 ㎡	古代
	八戸城跡①	確認調査	事務所併用住宅建設	H18/9/4	10 ㎡	縄文～近世
	鹿島沢古墳	確認調査	個人住宅建築	H18/9/19	1 ㎡	古代
	八戸城跡②	確認調査	個人住宅建築	H18/9/20	2.5 ㎡	縄文～近世
	市子林遺跡③	確認調査	個人住宅建設	H18/9/25	4.5 ㎡	縄文 / 古代 / 中世 / 近世
	酒美平遺跡②	確認調査	宅地造成	H18/10/10 ～ 10/12	29 ㎡	縄文 / 古代
	上ノ沢遺跡	確認調査	道路舗装	H18/11/13	85 ㎡	縄文
	新田遺跡	確認調査	個人住宅建築	H18/11/16	8 ㎡	古代
	櫛引遺跡	確認調査	車庫・物置建設	H18/11/16	8 ㎡	縄文 / 古代
	中道遺跡	確認調査	個人住宅建築	H18/11/29	12.25 ㎡	縄文 / 弥生
	石橋遺跡	確認調査	個人住宅建築	H18/12/4	32 ㎡	古代
	酒美平遺跡③	確認調査	個人住宅建築	H18/12/15	1 ㎡	縄文 / 古代
	根城跡岡前館①	試掘	私道建設	H18/6/16 ～ 7/11	245 ㎡	中世
	雷遺跡	試掘	個人住宅建築	H18/7/18 ～ 8/4	127 ㎡	縄文 / 古代
	一王寺（1）遺跡	試掘	範囲・内容確認	H18/7/19 ～ 8/11	491 ㎡	縄文 / 古代
	根城跡岡前館③	試掘	個人住宅建築	H18/7/24 ～ 8/31	150 ㎡	中世
	根城跡岡前館②	試掘	個人住宅建築	H18/7/26	20 ㎡	中世
	田面木遺跡③	試掘	道路舗装	H18/8/17 ～ 9/5	130 ㎡	古代
	新井田古館遺跡	試掘	宅地造成・集合住宅建築	H18/8/21 ～ 8/31	242 ㎡	中近世
	根城跡岡前館④	試掘	個人住宅建築	H18/9/17 ～ 9/15	730 ㎡	中世
	田面木遺跡④	試掘	個人住宅建築	H18/12/11	9.5 ㎡	古代
	酒美平遺跡④	試掘	配水管改良	H18/12/18 ～ 12/20	45.5 ㎡	縄文 / 古代
	館平遺跡	本調査	個人住宅建築	H18/4/26 ～ 6/2	406 ㎡	縄文 / 近世
	市子林遺跡①	本調査	長芋作付	H18/8/4 ～ 10/8	3,866 ㎡	縄文 / 古代 / 中世 / 近世
	林ノ前遺跡	本調査	植林・土取り	H18/9/6 ～ 9/29	1,050 ㎡	古代
受託事業	田向遺跡	本調査	土地区画整理	H18/7/3 ～ 9/29	2,720 ㎡	縄文 / 古代 / 中世 / 近世
	田向冷水遺跡	本調査	土地区画整理	H18/5/9 ～ 7/25	8,514 ㎡	縄文 / 古代 / 中世 / 近世
	八幡遺跡	本調査	屋内運動場建設	H18/4/10 ～ 7/10	1,280 ㎡	縄文 / 古代 / 中世 / 近世

《調査事務局》（平成 18 年度）

八戸市教育委員会

教　育　長　菊池　武
（～平成 18 年 9 月 29 日）
松山　隆豊
（平成 18 年 10 月 2 日～）

教育部長　佐藤　浩二
教育部次長　大岡　長治
文化課長　工藤　竹久

《埋蔵文化財グループ》

副参事兼 GL　佐々木　浩一
主　　幹　村木　淳
主査兼学芸員　小保内　裕之
主査兼学芸員　渡　則子
主事兼学芸員　小久保　拓也
主事兼学芸員　杉山　陽亮
主事兼学芸員　船場　昌子

《縄文の里推進グループ》

副参事兼 GL　竹洞　一則
主　　幹　宇部　則保
主　　査　大野　亨
主　　査　久保　伝
主　　事　佐々木　伸也

《文化振興グループ》

副参事兼 GL　石塚　勝栄
主　　査　佐藤　顕一
主　　査　村上　司
主　　査　高森　大輔
主　　事　佐々木千佳子

《平成 18 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 114 集　八戸市内遺跡 24

第 115 集　八幡遺跡Ⅳ

埋蔵文化財パンフレット

八戸再発見－八戸の埋蔵文化財

掘りday はちのへ　第 10 号

発行年月日　2007 年 5 月 31 日
編集・発行　八戸市教育委員会文化課
〒 031 - 8686
青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号
TEL０１７８（４３）９１５６（文化課直通）
E - m a i l　bunka@city.hachinohe.aomori.jp
http://www.city.hachinohe.aomori.jp/shiryo/iseki/index.htm（八戸市ホームページ）
印　　刷　大東印刷株式会社

印刷部数：1,000 部　印刷経費：一部あたり　94.5 円